

自己評価報告書(最終報告)

報告者

授業実践・カリキュラム開発
コース/西村 公孝

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

昨年度、社会形成力育成に関するカリキュラム開発の地域支援について、科学研究費を申請したが、不採用になった。そこで、徳島県小中キャリア教育支援に関する委員会の主査として取り組んできた経験を生かして、今日の教育課題である「キャリア教育」をキーワードとしたカリキュラム開発と実践を支援するテーマを設定したいと考えている。具体的には、「小中高一貫のキャリア教育支援に関する地域カリキュラム開発と実践による検証」である。計画については、徳島県の阿南市、美馬市のカリキュラム開発支援、これまで支援してきた愛知県新城市の小中高一貫のふるさとカリキュラム開発支援、教職大学院生の栃木県芳賀郡芳賀町の芳賀南小学校支援などをフィールドとして、小中高一貫の児童生徒の社会形成力育成としてのキャリア教育カリキュラム開発と授業実践による検証を計画し、申請を行いたいと考える。

2. 点検・評価

今年度は科学研究費の補助金申請として、他大学等からグローバル化に対応した人材育成の共同研究を依頼されたが、研究促進費補助金に力点を置くために平成25年度「学術図書」申請を約200万で行った。平成24年3月に兵庫教育大学から学位をいただいたので、その成果を刊行物として出版するために「社会形成力育成カリキュラムの研究」として補助金の申請を行った。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

教職大学院の定員確保のために、県外の現職派遣の可能性を探る活動をする。過去2年間に派遣のあった私の地元の愛知県名古屋市及び三河地区の教育委員会を訪問し、県教育委員会や総合教育センター派遣担当部長と連携して、派遣の要請を行う。昨年は、愛知県新城市、豊川市、岡崎市を訪問している。本年度は、豊橋市、安城市、刈谷市、半田市の教育委員会の訪問を予定している。幸いにして大学時代の知人等が教育委員会に勤務しているので、個別の訪問により成果をあげたいと考えている。また、特別教員養成コースの定員確保として愛知県の私立大学の訪問や三重県の私立大学の訪問を予定している。また、今年度の6月に開催される日本生活科・総合的学習教育学会の全国大会(徳島大会)において、大会要項に広告を掲載すると共に学会での宣伝活動を積極的に行う予定である。

2. 点検・評価

教職大学院の定員確保のために、県外の現職派遣の可能性を探る活動をした。過去2年間に派遣のあった私の地元の愛知県名古屋市及び三河地区の教育委員会を5月に訪問し、県教育委員会や総合教育センター派遣担当の水野部長に依頼し、派遣の要請を行った。本年度は、岐阜県、愛知県、名古屋市、豊田市、安城市の教育委員会の訪問を行った。また、国際協力コースの院生確保に協力し、これまで共同研究をしてきた私の地元の愛知県岡崎市の元小学校校長を勧誘し、中期の受験に間に合わせた。特別教員養成コースの定員確保として愛知県の私立大学(人間関係大学、東海学園大学)の訪問や三重県の私立大学(皇學館大学)の知人の教授に依頼をするとともに、中期の結果によって、再度、12月に他の大学を含めて訪問を予定していたが、相手校の都合もあり訪問は次年度の課題とした。また、今年度の6月に開催した日本生活科・総合的学習教育学会の全国大会(徳島大会)において、大会要項に広告を掲載すると共に学会での宣伝活動を積極的に行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①学生、院生が主体的に授業に参加できる討論、模擬授業及び課題探究学習等を積極的に取り入れる。
- ②教職大学院の5人の院生の報告書作成を計画的に指導し、成果をあげる。
- ③教職大学院の院生のフィールドワークの指導を充実させる。
- ④教職大学院の院生の研究課題構想作成のためのアセスメント支援を充実させる。
- ⑤部活動の茶花道部顧問として日頃の活動と大学祭を河崎先生の協力を得ながら充実させる。

2. 点検・評価

- ①学生、院生が主体的に授業に参加できる討論、模擬授業及び課題探究学習等を積極的に取り入れた。
- ②教職大学院の5人の院生の報告書作成を前期から計画的に指導し、報告書作成に成果をあげた。
- ③教職大学院の院生のフィールドワークの指導を充実させ、それぞれの院生の置籍校、年間4回、合計20回の訪問を予定し、予定通りに20回の訪問指導を終えている。
- ④教職大学院の院生の研究課題作成のためのアセスメント支援を充実させた。その成果を8月の中間発表で院生が行った。
- ⑤部活動の茶花道部顧問として日頃の活動を充実させ、11月の大学祭を河崎先生の協力を得ながら準備を進め、評判の良かった花展ができた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ①数年来の課題であった学位論文を完成したので、出版のための校正と実践の精緻化による検証を行う。
- ②日本社会科教育学会誌に論文を投稿し、学会における発表を目指す。
- ③愛知県岡崎市の地域カリキュラム開発支援を継続的に行うと共に、共同研究を行っている作手中・作手高校の中高一貫教育を本年度も支援する。
- ④平成24年度の日本生活科・総合的学習教育学会全国大会開催に向けて大会実行委員長として開催運営を計画的に進めると共に、支部組織の研究を支援する。

2. 点検・評価

- ①数年来の課題であった学位論文を完成させたので、出版のための校正と実践の精緻化による検証を11月に2つの中学校で実践した。また、2月に2つの小学校と3月に2つの高等学校での実践を行った。
- ②日本社会科教育学会誌に依頼の書評を執筆した。
- ③愛知県岡崎市の地域カリキュラム開発支援を9月にこれまでに200編以上の実践を評価した。また、8月に三河地区の総合的学習支援の講演会を行った。
- ④平成24年度の日本生活科・総合的学習教育学会全国大会の大会実行委員長として大会運営を計画的に進め、1000名を超える参加者をえて盛会のうちに終了させた。
- ⑤日本公民教育学会の副会長に推薦され、新しい学習指導要領に対応したテキスト作成の編集委員会を組織し、原稿執筆を取りまとめている。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

教職キャリア支援センター所長として、学部生を中心とした教育実習支援の充実を図る共に、音楽、図画・工作などの実技教育分野の支援を行う。また、高度な専門職業人の育成や専門機能の充実について、附属学校機能の強化に関する研究を推進する。具体的には、特別支援教育と教育実習に関する下記の研究を推進する。

(特別支援教育)

・特別な教育的支援を必要とする子どものための支援プログラムの開発 ・発達の気になる就学前幼児への支援プログラムの開発

(教育実習)

・参加要件に関する評価基準の開発 ・教員養成モデルカリキュラムの検証と改善 ・教育実習プログラムの開発

2. 点検・評価

教職キャリア支援センター所長として、学部生を中心とした教育実習支援の充実を図る共に、音楽、図画・工作などの実技教育分野の支援を行った。また、高度な専門職業人の育成や専門機能の充実について、附属学校機能の強化に関する研究を推進するためにプロジェクト研究(教育実習)を進め、中間報告書を3月にまとめた。

(教育実習に関するプロジェクト)

・参加要件に関する評価基準の開発及び実習評価の在り方

・年度末までに30回の研究会を開催し、3回の研究推進委員会を計画し実施した。また12月には外部講師を招聘して研究会を行った。

・これまでに教員養成系大学及び附属学校の一部を訪問し、研究課題の現状を調査し考察した。また、10校に依頼したアンケートも回収し分析した。

・11月に鹿児島大学で開催された日本教育大学協会教育実習部門の研究会で、プロジェクトの概要と成果の一部をセンター教員が発表した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

①附属小学校、中学校の教員と連携し、社会科教育分野の協同研究を進める。また、研究発表会に向けての指導・助言を行う。(附属学校)

②教員免許更新に関する研修を行う。(社会貢献)

③平成24年度開催の日本生活科・総合的学習教育学会全国大会の実行委員会の長として、徳島県内の先生方と協力して本県の研究推進に貢献する。(社会貢献)

④ジャイカ等の派遣による海外からの研修生に対して教職大学院生と共同セミナー等を行い国際交流に貢献する。(国際交流)

⑤第5回中日教師教育学会の運営委員として、企画・運営にあたり発表を目指す。(国際交流)

2. 点検・評価

①附属小学校の教員と連携し、社会科教育分野の協同研究を進め、研究発表会において授業研究会を公開するとともに指導・助言を行った。(附属学校)

②教員免許更新に関する研修会を8月に行い、県外を含めて53名の幼・小・中・高の教員免許更新講習を実施した。(社会貢献)

③平成24年度開催の日本生活科・総合的学習教育学会全国大会の実行委員長として、徳島県内の先生方と協力して本県の研究推進に貢献する全国研究大会を無事終了させた。(社会貢献)

④第5回中日教師教育学会の運営委員として、企画・運営にあたり、教職大学院生を参加させるとともに院生と共同研究発表を行った。(国際交流)

⑤徳島県明るい選挙推進協議会から学識経験者としての委員会委員の委嘱を受け、徳島県の行政に協力した。(社会貢献)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

学長より平成24年度の教育部門・優秀教員表彰(ベストティーチャー賞)を受け、文教速報で紹介された(平成24年10月19日)。